スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県勝山市

自 治 体 名 ： 福井県勝山市
担 当 課 名 ： 教育総務課
電 話 番 号 ： 0779-88-8111

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	253.88㎢
人口	20,653人 （令和8年1月末現在）
公立中学校数	3校 （令和6年4月1日現在）
公立中学校生徒数	478人 （令和7年5月1日現在）
部活動数	28部活 （令和7年4月1日現在）
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	未設置
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未設置

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

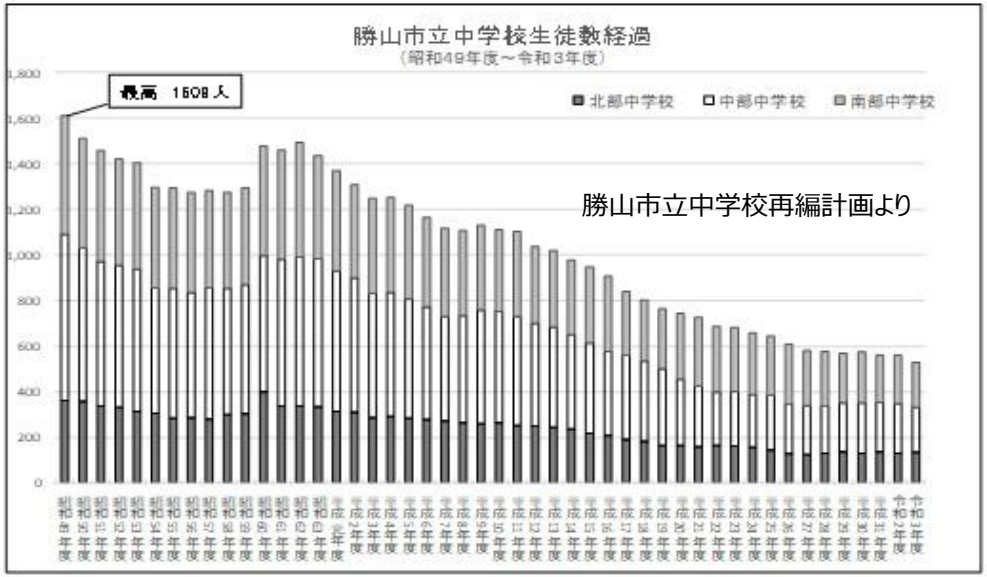
〇勝山市には3つの中学校があるが、近年、少子化の影響を受けて生徒数が大きく減少している。約50年前の昭和49年には1,609人であった生徒数が、令和7年には478人と1/3に減少している。

単独校においては部活動ができず休部になっているところや、大会出場のために3校で合同チームを結成しているところもある。

このような状況から、勝山市では市内3中学校を1校に再編統合し、令和9年4月に県立勝山高校の敷地内に開校する工事を進めている。

市立の中学校と県立高校が同じ敷地に同居する「中高一貫教育」は県内では初めてのケースで、全国的にも珍しく注目を集めている。

そういった中で、勝山市では、令和8年の秋以降、休日の部活動は全て地域展開を行う方針とし、平日においても受け入れ体制の整ったクラブから地域展開を進めていく方針である。

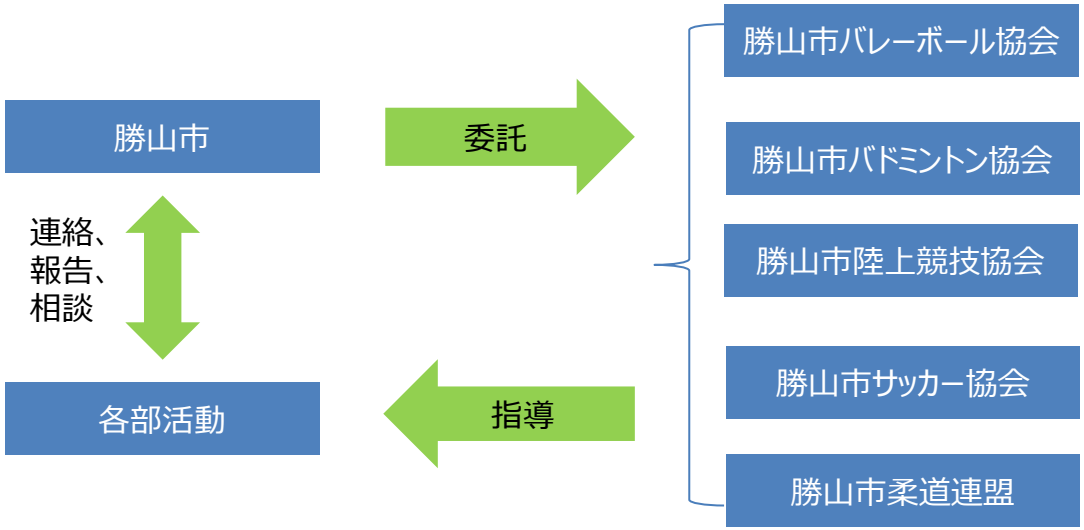


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・事務の総括、学校との連絡調整

◉首長部局

・各種スポーツ団体との連絡調整

年間の事業スケジュール

令和7年4月	• 各競技団体と地域移行に関する打合せ • 各競技団体において参加者等への説明 • 5競技において事業実施
令和7年5月	• 各競技団体の活動内容視察
令和7年8月	• 中学校部活動についての意見交換会
令和7年9月	• 勝山市地域スポーツ・文化活動ワーキングチーム会議
令和7年10月	• 勝山市中体連臨時理事会
令和7年11月	• 地域移行対応可能団体の洗い出し（令和8年度以降）
令和7年12月	• 勝山市地域スポーツ・文化活動ワーキングチーム会議
令和8年1月	• 次年度以降の活動体制について聞き取り（国実証実験希望団体）
令和8年2月	• 令和7年度実績報告

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	3クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域展開した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		5クラブ（5部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	36名	全体の運営スタッフ数	36名

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
勝山市バドミントン協会	地域スポーツ団体	バドミントン	週 1回 （土曜日中心）	13:00～ 16:00	1年 16名 2年 26名 3年 8名	4月～2月	勝山南部中学校体育館等	21名	21名	–	中体連：部活動 その他：地域クラブ
勝山市バレーボール協会	地域スポーツ団体	バレーボール	週 1回 （土曜日中心）	9:00～ 12:00	1年 7名 2年 13名 3年 14名	4月～2月	ジオアリーナ等	6名	6名	–	中体連：部活動 その他：地域クラブ
勝山市陸上競技協会	地域スポーツ団体	陸上競技	週 1回 （土曜日中心）	9:00～ 12:00	1年 5名 2年 5名 3年 2名	4月～2月	大野市ふれあい公園 等	6名	6名	–	中体連：部活動 その他：地域クラブ
勝山市サッカー協会	地域スポーツ団体	サッカー競技	週 1回 （土曜日中心）	8:30～ 11:30	1年 11名 2年 11名 3年 24名	4月～2月	勝山中部中学校グラウンド等	1名	1名	–	その他：地域クラブ
勝山市柔道連盟	地域スポーツ団体	柔道競技	週 1回 （土曜日中心）	18:00～ 20:00	1年 2名 2年 0名 3年 0名	4月～2月	B&G体育館柔道場	2名	2名	–	中体連：部活動 その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

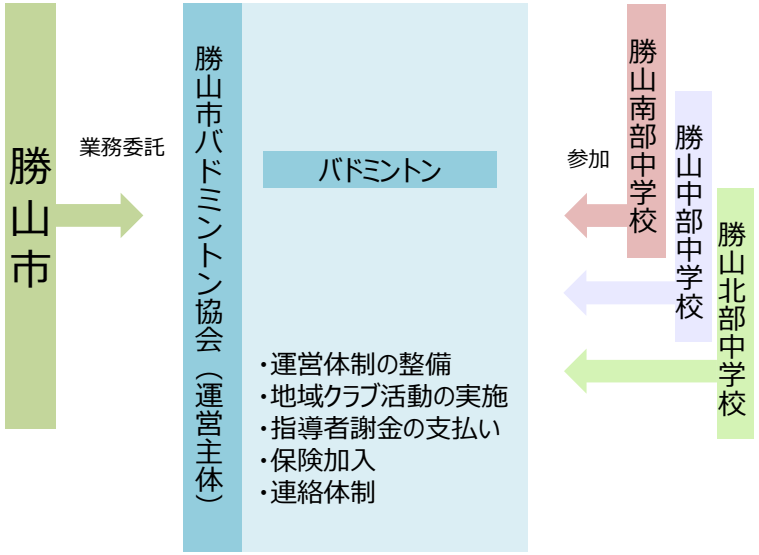
スポーツ庁

主な取組例

●勝山市バドミントン協会　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バドミントン
運営団体名	勝山市バドミントン協会
期間と日数	4月12日～12月6日（週1回程度）
指導者の主な属性	協会員、教員、大学生
活動場所	勝山南部中学校体育館
主な移動手段	各自現地集合
1人あたりの参加会費等（年額）	－　円
1人あたりの保険料	－　円 ※スポーツ協会が掛ける保険で代用

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、実施日の確定、会場確保、指導者の調整

●主任指導者　2名

役割：指導者と練習内容を整理し、学校や参加者（保護者）と調整を行う

●指導者　19名

役割：主任指導者の指導計画を元に生徒の指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

バドミントン協会では、下記の取組を行った。

- 生徒や保護者への連絡体制の確立
- 指導者との連絡体制の確立
  部活動では、学校の連絡体制を利用できたが、地域クラブとして教員を通さなくてもよい、LINEグループ等の体制整備を検討
- 運営団体の整備等

今後の取組における課題

- 学校や地域クラブ活動団体との連絡調整体制の整備
  平日の認定クラブ活動と学校部活動の連携
- 中高一貫教育実施予定の県立勝山高校との連携
  高校体育館と市営体育館の他、近隣の小・中学校体育館などを活用した、効果的な練習会場の確保
- 県内クラブ間のネットワーク構築

取組の成果

- メールやLINE等を活用した生徒や保護者への連絡体制を構築。
- 指導者間についても上記と同様な連絡体制を構築し、学校部活動と地域クラブの練習内容を共有。
- 運営団体については従来からあるバドミントン協会が担っており、これまでにジュニア育成等の事業を実施しており、その際に構築した実績に基づき運営できた。
- 近隣市町（坂井市）のクラブと交流会を行い、新たなネットワークを構築した。

課題への対応方針

- 今後は、推進組織を設置し、各種団体間及び団体内の連絡システムの在り方を共有していく。
- 一般の指導者の数が増えてきたため、学校関係者中心の指導から、全体での指導がスムーズに進むよう、連絡体制を強化する。
- 今後は時間に余裕のある世代にも声をかけて指導に参加してもらうことや、高校生年代との練習等も取り入れていきたい。
- 平日の練習について、市内の中学校を巡回する方法でクラブの活動を週1回程度実施する。この練習会に参加できる一般の指導者確保をめざす。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

- それぞれ違う学校から参加していることもあり、当初は基礎技術の向上と基礎体力の向上、および参加者が仲良くなるための指導を中心に実施した。
- ある程度基礎が固まってからは、参加者のレベルに分けて指導を実施した。
- シングルスだけではなく、ダブルスの指導も実施した。

活動の詳細

参加人数	50人	指導者数	21人
属性	バドミントン競技		
具体的な内容	バドミントン競技の指導 • 基礎練習 • ゲーム形式の練習 • 基礎体力の向上		
参加者の声	● 違う学校の仲間と一緒に練習できたことがうれしかった。大勢で練習できて良かった。 ● 違う学校の子や、違う学年の子ともペアを組んで練習したり、対戦したり等して楽しかった。 ● 教えてくれる人が丁寧に教えてくれた。いろいろな意見を聞けてよかった。 ● 午後からの練習だったので、宿題等の用事を片づけてから参加できてよかった。 ● 参加者のレベルが高い人もいて、ついていくのに苦労した。		
関係者の声	● 最初は参加者のレベルがまちまちで、指導にも戸惑ったが真面目に参加してくれる生徒が多く、参加者の多くが一定のレベルまで達することができた。（指導者） ● 教員でない指導者に対しても挨拶等がしっかりできていて良かった。（指導者） ● 生徒が学校の区別なく、異学年とも仲良く活動していたので指導しやすかった。（指導者） ● 送迎が大変なこともあった（保護者）		
運営経費	運営経費に関しては国委託金及び県補助金、市委託金で賄った		

2.実証内容と成果

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

バドミントン競技は昭和43年に開催された第23回国民体育大会において、勝山市が競技会場となったことにより競技人口が増え、強化も進んだ。

過去には、全日本選手権（シングルス・ダブルス）優勝者である長谷川博幸氏や東京・パリオリンピックに出場した山口茜選手を輩出しており、中学生年代においても平成17年には勝山南部中学校が団体で全中優勝する等「バドミントン王国」であった。

近年は少子化により部員数も減少傾向にあるが、小学生年代ではバドミントンのスポーツ少年団活動が盛んであり、また「バドミントン王国」世代の指導者が活動しているこのタイミングで中学生年代のバドミントン競技を盛り上げることによって、小さな町でも競技が継続でき、将来につなげることができるような体制の確保を目指した。

今年度もバドミントン競技の地域移行に関しては50名の参加登録があり、市内にある運動部活動の中では非常に多くの参加者を集めることができた。

●成果の評価

- 参加者は多く、参加率も非常に高かった。（実証実験実施期間を通じての参加率は80%を超えている）
- 指導者においても市内外からバドミントン経験者で高校年代等で全国大会を経験したメンバーを集めることができ、技術的には高度な指導が実施できた。
- 初心者から参加した生徒もいたが、丁寧な指導を心がけたので続けて参加してくれ、平日の部活動においても積極的に活動しているとの報告を顧問から受けた。
- 中学校を卒業してもバドミントンを続けるため、地元の勝山高校に進学する生徒が多くいた。

●今後に向けて

- 次年度以降も地域展開に向けた活動を取組むにあたり、統括責任者等のお世話をする人間の若返りを図りたい。
- 指導者の確保に関しても大人世代だけではなく、地域移行を経験した高校生等にも今後協力を求めたい。
- 令和9年度より、勝山高校敷地内に、市内３中学校を統合した勝山中学校を開校し、連携型中高一貫教育を開始する。バドミントンの強豪校である勝山高校との連携の中で、バドミントンに対する中学生の関心を高め、部活動、地域クラブ活動がどのように役割を分担するかについて検討を進めたい。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

参考資料









【バドミントンの試合風景】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

検討開始 ▶ 受け皿団体や指導者の選定 ▶ 学校現場との調整 ▶ 生徒、保護者への説明 ▶ 令和5年 地域クラブ活動の開始 ▶ 令和8年 記載例）地域クラブ活動の拡大

●ステークホルダー

学校、スポーツ協会、競技団体、市長部局、市教委

●経過

令和4年度末に国の実証実験を受けるにあたり、各種スポーツ団体や学校現場と相談したが、土台となる総合型地域スポーツクラブがなく新たに立ち上げるのは困難であった。しかし、勝山市スポーツ協会では各団体に補助金を出し、小中学生年代のスポーツ普及・強化活動を実施していた実績があったので、その手法を拡充する方法で地域スポーツクラブ活動の端緒とすべく検討したところ、単一競技ではあるがバドミントン、バレーボール、陸上競技の各協会が実施に手を挙げてくれた。

●実施内容、工夫した点 等

令和9年度の中学校統合（3校→1校）に向け、学校間の垣根を越えた活動については望むところであり、特にバドミントンについてはオリンピック選手も輩出する等、過去から人気の部活動でありその競技団体が手を挙げてくれたことは非常に喜ばしいことであった。令和5年の地域移行のこけら落としには実業団選手を呼び生徒の興味を誘った。また、地域クラブの活動に当たっては市営施設の使用料を学校利用と同じとし、減免の措置を取る等し、クラブが活動しやすい環境の整備も行った。

●実施にあたって生じた課題

休日のクラブ活動において、指導者を集めることが最も難しい。また、保護者も部活動と地域スポーツクラブの違いを理解いただけず、学校へ問い合わせをすること等も見受けられた。

また、団体種目によっては指導者と保護者の意見が合わず活動を開始したが、1年間で活動停止に至ったクラブもあった。

●今後の展開

令和8年秋からは、市内すべての中学校において休日の部活動を実施しない予定である。本格的にスポーツを追及するようなクラブだけではなく、楽しんで活動できるように平日から部活動という名称ではなく放課後活動として様々な体験ができるよう工夫したい。そのためにスポーツ協会だけではなく、スポーツ少年団や文化協会等とも連携し、様々な活動の展開を実施していく。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
県			ガイドラインの改定	
市	地域移行実証モデル開始 学校、団体との連携・協議 運営経費の確保 参画団体の確保 情報の提供	地域移行実証モデル継続 学校、団体との連携・協議 運営経費の確保 参画団体の確保 情報の提供	地域移行実証モデル拡充 学校、団体との連携・協議 運営経費の確保 参画団体の確保 情報の提供	休日の部活動の停止
学校	行政、団体との連携・協議 団体と共同した指導	行政、団体との連携・協議 団体と共同した指導	行政、団体との連携・協議 団体と共同した指導 余暇としての教員の指導 生徒・保護者からの意見徴収	
団体	行政、学校との連携・協議 実証実験の実施	行政、学校との連携・協議 実証実験の実施 団体間の情報交換 自主運営に向けた検討	行政、学校との連携・協議 実証実験の実施（参画団体の拡充） 団体間の情報交換 自主運営に向けた検討	

目指す姿

○○中学校統合に合わせた生徒の放課後活動の確保
○地域スポーツや地域文化の新たな担い手として中学生に活躍の場を設ける
○学校現場の働き方改革の実施